

岡山市地域ケア総合推進センター 市民公開講座

『在宅医療の最前線 ～看取り経験を子供たちに～』

日時：平成30年11月25日(日) 13:30～16:00 場所：岡山市地域ケア総合推進センター 多目的ホール

- 13:30～13:40 開会
- 13:40～15:40 石賀丈士先生 講演
- 15:40～15:55 質疑応答
- 16:00 閉会

開会あいさつ（岡山市保健福祉局 局長 森安 浩一郎）



●講演

『在宅医療の最前線 ～看取り経験を子供たちに～』

【講師】石賀 丈士 氏

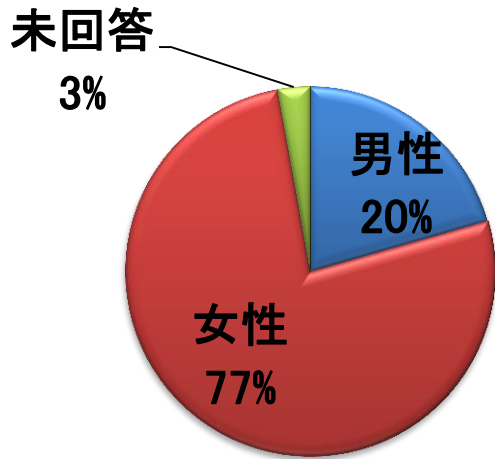


※100人超の市民の方が熱心に講演を聴かれました。

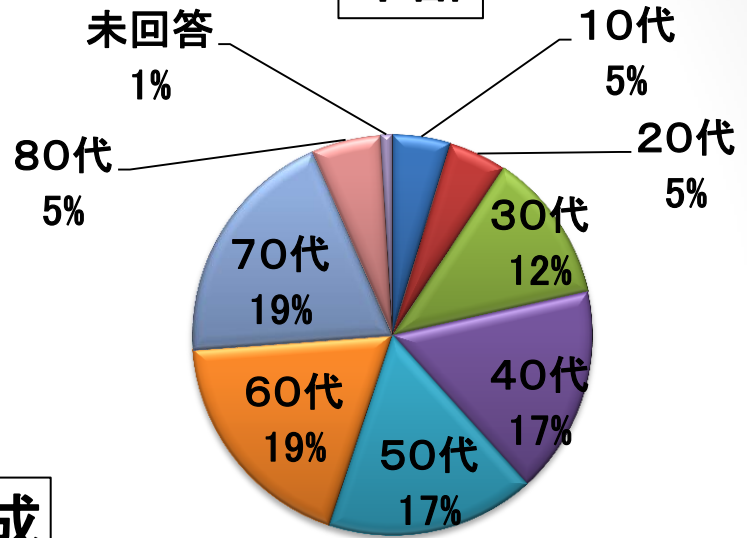
参加後のアンケート①

回収：107枚

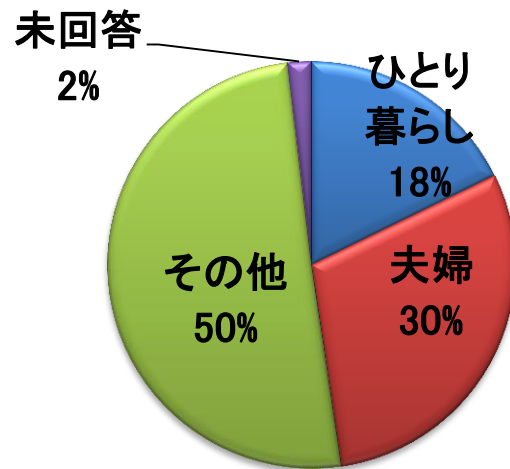
性別



年齢



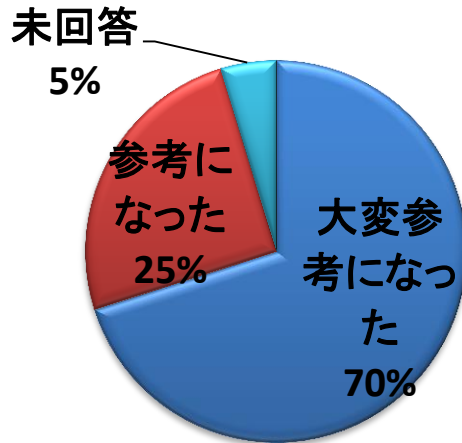
世帯構成



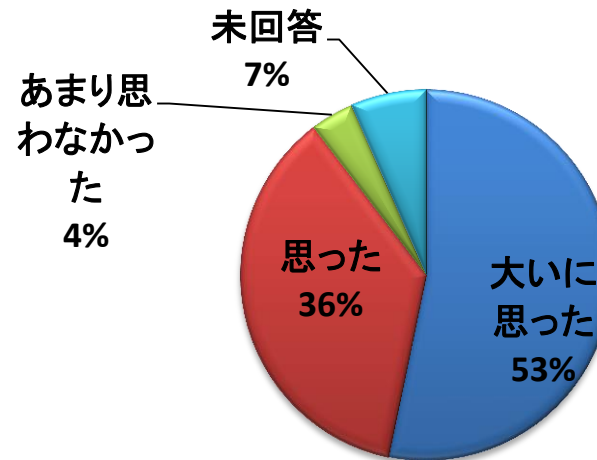
参加後のアンケート②

回収：107枚

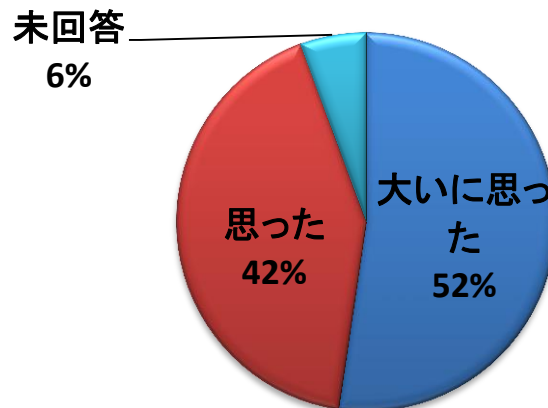
今回の講演会のご自身または家族の療養を考える上で参考になりましたか



療養が必要になったとき、自宅で医療や介護を受けてみたいと思われましたか



ご自身またはご家族の治療や療養に関する意向について話し合ってみようと思われましたか。



ご意見や印象に残ったこと等がございましたら、ご記入ください。

- 岡山でも在宅医療が進み、病院が混まなくなったら良い。胃ろうについて、医師・患者自身が意味を考えていかないといけないと思いました。
- 死の直前に立ち会ったことがなく、お迎え現象というものが分かり良かったです。
- 医師の立場から病院へ切り込んだ意見を聴けて、これまでに感じたことのない印象がありました。ありがとうございました。
- 四日市モデル、興味深いです。勉強します。
- 自分の判断が十分できる知識を得ること。聞いてよかった。
- 最期の看取りについて、大変勉強になりました。
- ありがとうございました。貴重なお話を聴けた良い機会でした。
- はじめて緩和ケアの講演会を聴くことができました。がんの緩和や痛みを和らげることが出来るということで、人を助けているのとてもすごいなと思いました。
- 祖父と祖母と叔母を中学生の頃に家で看取るという経験をしていて、今回の講演を聞いて、また死について考える良いきっかけになりました。
- 亡くなる前に体に起きる変化が印象に残った。
- 死についてはあまり話し合うことがないので、これを機に考えることができ良かったです。
- 岡山に来て下さってありがとうございます。12年半看護師として総合病院で働き、現在離職中ですが、緩和ケアの勉強を頑張ってきたので、訪問診療にチャレンジしてみようと思っていたところ、このような講演に出席させていただくことができ良かったです。「医療は最高のサービス業」というのがとても心に響きました。本当にありがとうございました。講義も市民公開講座ということで分かり易かったです。
- 単身赴任できるなら石賀先生のクリニックで働きたいと思いました。家族の看取りもこれからしていくであろう心の準備が出来ました。また、自分がもしも最期の時を迎えるときは石賀先生のような先生に看取っていただけたらと思いました。
- もともと緩和ケアに興味があり、現在は外来看護をしています。これから在宅医療を学び、その人らしく最期を迎えるお手伝いをしたいと強く思いました。良い事ばかりではないと思いますが、濃い命を感じて生きたいと思いました。ありがとうございました。
- たまたま市のホームページを見て知ったが、もっとこのような講演があれば参加したい。命のバトン、まさにその通りで看取りを改めて考えさせられた。
- 石賀先生はさらっとしていらっしゃるけど、ものすごい努力・勉強・仕事量をこなされていると思います。私も同世代で子供の年齢も同じくらいです。岡山で精一杯頑張りたい。またお会いしたいです。ありがとうございました。
- 在宅医療に関わりたいと思いました。
- いろいろ同様のテーマで話は聞いてきましたが、子供目線は初めてでした。考えさせられました。クリニックの働き方は、看護師がワンクッションおくのが当たり前と思っていたけれど、夜間対応など医師にすごく負担があると思いました。患者さんにとってはとても安心ですね。

(続き)

- 大変いいお話が聴けて、息子を連れてくれば良かったと思いました。
- 自分が住んでいる地域に先生のような在宅医があればいいなと思いました。
- お話の内容がとても分かり易いものだったので、時間があまり長く感じられませんでした。
- 今回、先生のお話を聴く中で、自分自身の死や家族の死を考える機会になりました。在宅での診療でどのようなことが出来るか具体的に説明して下さい、イメージすることが出来ました。
- 医師でも看護師でもない私に地域ケアの場面で何かお役に立てることがあるでしょうか。最近の私の自分への毎日の問いかけです。
- 娘（高2）と一緒に参加しました。娘は私の父と叔母が在宅でなくなっていく姿を知っています。特に叔母は最期の14日間、私と一緒に世話をして最期まで息を引き取る瞬間と一緒に見守りました。そのことでこの講座にも参加したいと一緒に申し込みました。本当に良いお話を聴くことが出来ました。娘も将来の事を悩んでいる時期で、何か感じるがあればと思いました。
- 今までの医療への考え方を変えなくてはいけないことを認識しました。
- 現代に必要な生き方、考え方を教えていただきとても感動しました。自分の生き方を改めて考えられて、自分の最期を娘たちに伝えていきたいと思います。
- 痰をつまらせてごろごろ言っているのが苦しそうでそばにいるのがつらかったが、そうではないとか、いろいろ勉強になりました。
- 自宅で看取るのはとてもよかったことが多いのですが、先生の専門性（痛みのケアなど）はとても大切だと思いました。四日市に友達がいるので聞いてみます。
- 訪問看護の仕事をしており、今回のテーマの「看取り経験を子供たちに」の内容を聴きたく参加しました。今後在宅死が増えるよう石賀先生のような医師が増えることを望みます。
- すごくためになり、ありがたかったです。身内の方にも教えてあげたいと思いました。今回のお話を娘たちに教えます。
- 孫が祖父の看取りで優しい子になった。余りに切実なニュースが多く、今日の講座を一人でも多くの人に伝えていきます。
- 家族が仲良くあることが一番大切。
- 大変勉強になった。こんな素晴らしい先生がいることをたいへん嬉しく思った。主人もがんで死亡したが、今日の内容を知っておればと残念です。
- 実際の事例なので大変参考になりました。
- 分かり易く、死というものが恐ろしくなくなった。